

【みさき】  
「……あ、おはようございますっ」

【みさき】  
「ふふっ、まだ眠たそうな目をしてますね。相変わらずのお寝坊さんです♪」

【みさき】  
「私の場合はもう早起きというよりも習慣みたいなものですから」

【みさき】  
「……と言っている間にほら」

【みさき】  
「朝ご飯の準備ができましたよっ」

【みさき】  
「ふふっ、気にしないでいいんですよ。私が好きでしているだけなんですから」

【みさき】  
「あー……ただ冷蔵庫の中身をもう少し充実してくれると嬉しいです。さすがにめんつゆだけじゃなにも作れませんから」

【みさき】  
「毎朝お家から食材を持ってくるのって結構大変なんですよ？」

【みさき】  
「お陰で最近腕が少し太くなっちゃった気がします……」

【みさき】  
「きゃっ!？」

【みさき】  
「ちょ、ちょっとっ、いきなり触らないでくださいっ」

【みさき】  
「そ、それとこれは別です!」

【みさき】  
「ま、まあ、事前に言ってもらえた方がいろいろと準備ができますから……って!」

【みさき】  
「ほらほら! ご飯が冷めちゃいますから、急いで顔を洗ってきてくださいっ」

【みさき】  
「急がないと大好きな焼き魚が冷めちゃうですよ？」

【みさき】  
「……はあ。好物があるとわかった途端動きが素早くなるんですから……」

【みさき】  
「あの様子だといっぱい食べそうですし、ご飯は大盛りにしておきましょうか」

【みさき】  
「お味噌汁もよそって……っ」と

【みさき】  
「あはっ、お早いお戻りですね。はい、それじゃあ一緒に……いただきます!」

【みさき】  
「……ゴクン。うん! 今日のお味噌汁もいい感じですっ。どうです? お口に合いますか？」

【みさき】  
「えへへ、ありがとうございますっ」

【みさき】  
「あ、そうですっ。ちょっとこの玉子焼きも食べてみてもらえますか？」

【みさき】  
「少し味付け変えてみたんです。いつもは甘いやつが多いですが、やっぱり男の人はしょっぱいほう好きかな? って思いまして」

【みさき】  
「ふふっ、「最高においしい」いただきましたっ」

【みさき】  
「はい。おかわりはまた大盛りですか？」

【みさき】  
「わかりました。けど、朝から食べ過ぎて学園の授業で居眠りはダメですからね？」

【みさき】  
「そ、そんな嬉しいことを……ちょ、超大盛りにしておきますね!」

【みさき】

「あっ、醤油ですね。はい、どうぞ」

【みさき】  
「大根おろしもありますので、使ってくださいね」

【みさき】  
「ふふっ、むしろ君は大根おろしがなかったら怒るじゃないですか」

【みさき】  
「当然です。もう何年こうして通っていると思っているんですか？」

【みさき】  
「君がして欲しいこと全部……とは言えないかもだけど、ほとんどわかっているつもりですよ？」

【みさき】  
「え、えっと……その顔はキスしてほしい……って顔……ですか？」

【みさき】  
「ダ、ダメですからねっ！　今はご飯を食べる時間です！　それにこのあと学園があるんですから我慢しましょうね？」

【みさき】  
「私だってしたくないわけじゃないんですから……ね？」

【みさき】  
「ん～～っ、今日はいい天気ですね～」

【みさき】  
「はいっ。なんだか雲一つ無い青空を見ていると泳ぎたくなってきますよね」

【みさき】  
「ふふっ、それもそうですね！　では、夏休みになったら一緒に泳ぎに行きませんか？」

【みさき】  
「うーん……近所のプールは知り合いに会いそうで少し恥ずかしいです……」

【みさき】  
「かと言って少し離れたところのプールは人が多くて大変でしょうし……」

【みさき】  
「そうです！　今年はいっそのこと海まで足を伸ばしちゃいましょう！」

【みさき】  
「はい！　では決まりですね！」

【みさき】  
「となると新しい水着を買いに行かなくちゃです……」

【みさき】  
「うーん、確かにそうなんですけど……その……」

【みさき】  
「……ちょっと、サイズが心配で……あっ！　太ったわけじゃないですからね！？」

【みさき】  
「そ、それはセクハラですよ！？　いくら君でも直接確かめたから知ってるって発言はアウトです！」

【みさき】  
「ま、まあ……そういうエッチなところも嫌いじゃないですが……」

【みさき】  
「ええっ！？　スク水なんて、それこそアウトですよ……」

【みさき】  
「紺色じゃなくて白だから大丈夫？　さらにニーハイを履けば完璧！？　そ、そういう問題じゃないですっ！！」

【みさき】  
「……君がどうしてもって言うなら、他に誰も見てないところで着てあげてもいいかも……です」

【みさき】  
「そ、そんなに大きくガッツポーズしなくても！？」

【みさき】  
「んもう！　変なことばかり言っていると置いていきますよっ？！」

【みさき】  
「お、怒ってはいないですが……あ、やっぱり怒ってますっ」

【みさき】  
「許してほしかったら手を繋いでくださいっ。じゃないと本当に怒りますよ？」

【みさき】  
「ふふっ、君の手は温かくて本当に気持ちいいですねっ」

【みさき】

「ではこのまま学園までレッツゴー！」

【みさき】  
「はあっ、はあっ、はあっ……」

【みさき】  
「はふう～、お待たせしました」

【みさき】  
「ちょっと日直の仕事が長引いちゃいまして……すみません、私が買い出しに付き合っほしいってお願いしたのに」

【みさき】  
「はい。なにか献立のリクエストはありますか？」

【みさき】  
「お肉系って言われてもいろいろありますからね……うーん、ではハンバーグとかどうですか？」

【みさき】  
「ふふっ、ありがとうございます。付け合わせはポテトサラダとお豆腐サラダにでもしておきましょうか」

【みさき】  
「スープですかぁ……ハンバーグにお味噌汁ってのも変ですから、シンプルにコンソメスープでいかがでしょう？」

【みさき】  
「あはは、了解です。そうと決まれば早速行きましょうか！」

【みさき】  
「ただいまー。そしておかえりなさいっ」

【みさき】  
「ごめんなさい、ついつい買い過ぎてしまって……重かったでしょ？」

【みさき】  
「ふふっ、了解しました！ 気合いを入れて作りますね！」

【みさき】  
「うーん、ひとまずは大丈夫です。なので、テレビでも見て少し休んでいてください」

【みさき】  
「はいっ、ありがとうございますっ」

【みさき】  
「～♪ ～～♪」

【みさき】  
「～～♪ ～♪」

【みさき】  
「塩こしょうで下味を付けて……お肉と混ぜたらパン粉を入れてっど……」

【みさき】  
「あれ、どうかしましたか？」

【みさき】  
「え、エロい音って……お、お肉をこねてるだけなんですけど……もう君って人はっ」

【みさき】  
「……こ、こらっ、急に変なとこ触らないでくださいっ！」

【みさき】  
「制服にエプロンはいつもの格好なので、特別エロくはないと思いますが……」

【みさき】  
「た、確かに朝からいろいろと我慢させてばかりな気がしますが……ほ、ほら、今料理中なのでもうちょっとだけ待っててください」

【みさき】  
「ちゃんと待ってくれたら……その……たくさんサービスしてあげますから……」

【みさき】  
「た、例えば！？ え、えっと、そうですねえ……」

【みさき】  
「ふふふっ。では、まず最初のサービスはハンバーグをとびきり大きくしてあげますね！」

【みさき】  
「そ、れ、に……まずはお腹いっぱいになっておいてもらわないと、この後のサービスが受けられないかもしれませんよ？ ほら、腹が減っては戦はできぬと言いますし」

【みさき】  
「寝かせない戦って……んもう、そんなこと言って知りませんからね？」

【みさき】  
「だって……君が我慢しているということは、私も我慢してるってことになるんですよ？」

【みさき】  
「よ、よし！　それじゃあまずは大っかいハンバーグを焼きましょうか！」

【みさき】  
「任せてください！」